

第55回全道少年軟式野球十勝支部予選大会

大会要項

- 1 主催 北海道軟式野球連盟十勝支部
- 2 後援 十勝毎日新聞社、十勝スポーツ少年団、帯広少年軟式野球連盟、
十勝管内町村少年野球指導者協議会、
帯広市教育委員会、浦幌町教育委員会、池田町教育委員会、
芽室町教育委員会、鹿追町教育委員会、本別町教育委員会
- 3 協賛 株式会社マテック
- 4 参加資格
 - ・十勝管内各小学校に在籍する者で、チーム全員がスポーツ傷害保険、又はこれに類する保険に加入していること。
 - ・全日本軟式野球連盟登録でスポーツ少年団に加入しているチーム。
 - ・登録選手は、監督(30)・コーチ(29・28)を除いて25名以内とする。
 - ・監督、コーチは18歳以上であること。
- 5 全道大会参加枠
 - 優勝 — 第55回全道少年野球大会(支部第一代表・開催地:札幌市)
 - 準優勝 — 第55回全道少年野球大会(支部第二代表・開催地:札幌市)
 - 第3位 — ホクレン旗争奪少年野球大会(支部第二代表・開催地:札幌市)
 - 第4位 — 道東ブロック少年野球交流大会(支部第一代表・開催地:厚岸)
 - 第5位 — 道東ブロック少年野球交流大会(支部第二代表・開催地:厚岸)
- 6 大会日程
 - 〈各ブロックトーナメント〉
令和8年6月20日(土)6月21日(日)【予備日 7月4日(土)】
 - 〈支部代表決定戦・閉会式〉
各ブロック優勝チーム
令和8年7月4日(土)【予備日7月5日(日)】
各ブロック準優勝チーム 第5位抽選会
令和8年7月4日(土)午前11:00~【予備日7月5日(日)】
- 7 会場
 - [Aブロック] 帯広市 十勝川河川敷 E 球場・十勝川河川敷 F 球場
 - [Bブロック] 池田町 池田町河川パークソフトボール場
浦幌町 浦幌町民球場
 - [Cブロック] 芽室町 芽室町営野球場
鹿追町 鹿追町立鹿追小学校グラウンド
 - [Dブロック] 本別町 本別町太陽の丘野球場

〈支部代表決定戦〉 帯広市 十勝川河川敷 E 球場・十勝川河川敷 F 球場
〈第5位代表抽選会〉 帯広市 十勝川河川敷 E 球場大会本部

- 8 雨天による判断 原則現地の判断による。各球場の連絡先は下記のとおり。
帯広会場：小川(090-8429-4140)
池田会場：飯田(080-5597-3178)
浦幌会場：野口(080-3233-7555)
芽室会場：佐々木(090-8425-2115)
鹿追会場：西山(090-6879-2480)
本別会場：大橋(090-9512-1286)
- 9 大会本部 北海道軟式野球連盟十勝支部【帯広の森平和球場】
TEL・FAX 0155-66-6216
- 10 用具 金属製スパイクの使用は禁止。捕手は、プロテクター・レガース・マスク・ヘルメットおよびファールカップを着用すること。コーチスボックスに入るベースコーチ及びダートサークル内に留まる、あるいは出入りする補助員はヘルメットを着用すること。
- 11 ベンチに入れる人数の制限 ベンチには、登録選手25名以内と、ユニホームを着た監督(30)・コーチ(29・28)の3名の他にチーム責任者1名、マネージャー1名、スコアラー1名の3名以内とする。
- 12 規則 ・2026年度公認野球規則を適用する。
① 試合は、全試合トーナメント方式とし、ブロック予選は5回戦、正式試合は3イニングとする。又、3回以降7点差の場合はコールドゲームを適用する。
② 支部代表決定戦は全試合6回戦とし、5回以降7点差の場合はコールドゲームを適用する。
③ 選手の健康管理を考慮し、試合時間は1時間30分とし、1時間15分を超えて新しいイニングに入らないこととする。但し、プレーヤー等の負傷手当のための遅延は試合時間に算入しないものとする。
④ ゲームは、①・②・③どちらも試合成立となる。
⑤ 投手の投球数は、1日70球(4年生以下は60球)とする。ただし、70球(4年生以下は60球)に達した場合、その打者の打撃中に攻守交代となるか、打撃が完了するまで投球することができる。なお、投手の12秒、20秒ルールにおいて、タイムの後に投球された投球数は、1日の投球数に加えるものとする。
⑥ ダートサークル内に入る補助員はヘルメットを着用すること。(ボールボーイ含む)
⑦ 頭部へのヒット・バイ・ピッチにおいては、その程度を問わず臨時代走の処置を行うものとする。
⑧ 指名打者制度(DH制)を導入する。ただし、二刀流選手は採用しない。
⑨ 各球場の特別ルールに関する事項は試合前の打順表交換時に説明。
⑩ その他、2026年競技者必携改訂について別紙記載のとおり遵守すること。

- 13 延長戦 最終回を終了して同点の場合は、タイブレーク方式を1回行い、なおも同点の場合は抽選とする。ただし、最終回を終了した時点で試合時間を超える場合は、即抽選とする。(タイブレーク方式は無死、1・2 塁から開始する)
- 14 抗議権 抗議の出来る者は、監督か当該プレーヤーのいずれか 1 名とする。
- 15 競技に関する特別規則
- ・規則5・10d【原注】の「同一イニングでは、投手が一度ある守備位置についたら、再び投手となる以外他の守備位置に移ることはできないし、投手に戻ってから投手以外の守備位置に移ることもできない。」は適用しない。
 - ・監督・選手がタイムをかけて投手の元に集まる事の出来る回数は3回とする。**この際、投手(内野手を含む)にペットボトルやタオルを持参することが出来る。但し、選手を帯同させることはできない。**攻撃側のタイムについても3回までとする。但し、先にタイムを要求した側のタイムが終了する前に、後から集まった側が終了した場合は、後から集まった側の回数はカウントしないが、長引けばタイムをとったものとする。なお、タイブレーク方式となった場合は、1度行うことができる。
- 16 試合に関する取り決め事項
- ・シートノックは5分間とし各会場最初の試合のみとする。但し、天候及び大会運営上シートノックを行わないで試合を開始する場合もある。
 - ・監督、コーチのマウンドへの行き返りは小走りでスピーディーに行うこと。
 - ・打順表交換は、第1試合は試合開始30分前とし、第2試合以降は前の試合の3回終了時に攻守を決定する。また、打順表には、出場選手全員をフルネーム(フリガナ付き)で記載のこと。
 - ・コーチボックスに入るベースコーチのウインドブレーカーの着用を認めるが、同意匠とすること。
 - ・本塁での捕手への体当たり及び2塁への不必要なスライディングを禁止する。(インターフェアを適用)。
 - ・捕手のブロックを禁止する。(オブストラクションを適用される場合がある)
 - ・試合前に限りコーチによるブルペンキャッチャーを認める。**(マスク着用すること)**
 - ・控え選手が準備投球を捕球する場合は、捕手に求められる用具をすべて着用していない限り、立って捕球する。(出場している内野手可)
- 17 試合のスピードアップ化
- ・あまりにインターバルが長過ぎりたり、無用なけん制が度を過ぎると、反則行為としてペナルティを課することがある。
 - ・攻守交代は、**駆け足でスピーディーに行うこと。**
 - ・打者は、**アマチュア野球内規②バッタースボックスルール(88P)を理解し、これを実行すること。**
 - ・捕手は、**返球する時や声をかけるためにホームプレートの前や横に出すぎないこと。**

- 18 応援について
- ・マナーを守った節度ある応援については、チーム代表者の責任において統制を行う事とする。(2026年競技者必携 P12 参照)
 - ・チーム責任者は、北海道軟式野球連盟発行「少年・学童(女子を含む)軟式野球大会応援ガイドライン」を参考にチーム関係者全体への周知徹底に努める。
- 19 マナーアップ
- ① 攻守交代の際に、控え選手がベンチを出て守備練習を見守ることを認める。ただし、球審のプレイ宣告までにはベンチに戻ることを認める。
 - ② 投手の準備投球に合わせて、先頭打者、次打者が次打者席で素振りをする以外、他の選手がベンチを出て素振りをすることを禁止する。
 - ③ 打者が投げ終わった球種を、次打者他に知らせることを禁止する。
 - ④ 投手が投手板に触れて投球位置についたら、投手の動揺を誘うような大きな声を発することを禁止する。
 - ⑤ 学童部、少年部(女子共)の試合においては、ベンチ内の大人がいかなる状況であっても、選手を委縮させるような言動を禁止する。
- 20 熱中症対策について
- 著しい気温上昇が予測される場合は環境省の熱中症予防情報サイト(WBGT)を参考に試合時間を変更もしくは順延とする場合がある。その可否の判断は大会本部(十勝支部)より、各球場責任者へ伝達するものとする。なお、試合当日の対応については別添資料を参考にクーリングブレイクは大会本部が、予防対策は各チームが責任をもって対応にあたり、応急処置については共同で対応にあたる。
- 21 その他
- ・大会運営の関係上、各会場に1チーム、開催地チームを入れることとする。(監督会議の際に抽選により決定する。)
 - ・今年度に限り第5位を抽選により決定する。
 - ・抽選は、各ブロック準優勝の4チーム監督によって行なわれ厚岸大会に出場する。
 - ・球場施設内はすべて禁煙とする。